



「好き」から始まり、未来に繋がる探究的な学び

校長 博多 正勝

8月31日、西原小学校に子供たちの元気な声が戻ってきました。夏休みには、自由研究等、自分の好きなことや興味のあることに進んで取り組んだ子も多かったことと思います。自分で問いをもち、調べ、考え、まとめた経験は、これからの学びに大きく生きてきます。

今から4年後の2030年度に、国の教育方針の柱である「学習指導要領」が変わります。昨年の9月に文部科学省より、今後の基盤として「論点整理」が出されました。

次の改定のキーワードが以下になります。

「自らの人生を舵取りすることのできる、民主的で持続可能な社会の創り手」を育む。

この実現には以下の取組が重要とされています。

一点目は、**「子供たち一人一人の「好き」を育み、「得意」を伸ばす」**ことです。子供の学びは、「やってみたい」「もっと知りたい」という思いから大きく広がります。夏休みの様々な取組もその入口です。自分でテーマを決め、調べ、試し、まとめた経験は、教科の学習にも、これからの生活にも繋がる大切な力です。

二点目は、**「当事者意識を持って自分の意見を形成し、対話と合意ができる」**ことです。これからの社会では、正解が一つに決められない問題に出会うことが多くなります。その時に大切なことは、「自分ならどうするか」「みんなにとってより良い方法は何か」と考える姿勢です。

学校では、授業や係活動、委員会活動、行事等で、子供たちが自分の考えをもち、友達と伝え合い、より良い考えをつくる場面を大切にしています。意見を言うこと、相手の考えを聞くこと、違いを受け止めることは、これからの学びに欠かせない力です。

西原小学校では、これまでも子供たちの興味や疑問を大切にしながら、「自分で考える」「友達と学び合う」「最後までやりぬく」姿を育ててきました。新しい学習指導要領の方向性は、決して遠い未来の話ではなく、日々の授業や生活の中にあります。

また、渋谷区の学びの柱である「シブヤ未来科」は、個人の興味・関心を広げていく「テーマ探究」と、それらを深めていく「マイ探究」の大きく二つになります。この学習は、学習指導要領の改訂に向けて、国も必要な学習と捉えています。（詳細は添付ファイルをご覧ください。）

共通のテーマについて仲間と考えを深めること、自分の興味・関心から問いを立てて学ぶことは、「好き」を育み、「得意」を伸ばし、当事者意識をもって社会に関わる力を育てることに繋がります。シブヤ未来科は、そうした力を子供たちの日々の学びの中で育てていく、国の方向性とも重なる大切な取組です。

こうした探究的な学びは、学校だけで完結するものではありません。保護者の皆様には、ぜひお子さんが夏休みに取り組んだことを話題にさせていただきたいと思います。「どうしてそれを調べようと思ったの」「次は何をしてみたいの」と聞いていただくことで、子供たちは自分の学びを振り返り、次の問いや意欲につなげることができます。

2学期も、子供たち一人一人の「好き」を出発点に、「得意」を伸ばし、友達と関わりながら学びを深めていけるよう努めてまいります。保護者の皆様には、渋谷区が進める探究的な学びのねらいをご理解いただき、学校・家庭・地域が共に、子供たちが自分の問いをもち、学びを楽しみ、周りの人と力を合わせてより良い社会の創り手へと、育ててまいります。

参考資料：中央教育審議会 教育課程企画特別部会「論点整理（素案）」

https://www.mext.go.jp/content/20260129-mxt_kyoiku01-000045057_01.pdf

文部科学省 生活、総合的な学習・探究の時間 WG「取りまとめ（案）②総合的な学習・探究の時間」

https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/115/mext_00001.html